

卒業まであと13日。

あなたはどんな毎日を送りますか。

昨日の学年集会で、代議員6人が卒業にむけての思いを語り、答辞代表も発表されました。しっかり顔をあげて6人の言葉を聴くみんなの姿をみて、先生たちも、いよいよ卒業が近づいてきたんだと実感させられました。

教室にもどってからは「卒業式」とはどんなものなのかを考えました。

「卒業式とは、人生の節目として、新しい未来への一歩として、厳かに行われる式典である。」

人生の節目を、みんなはどんな気持ちで迎えますか。

「卒業式を考える」フリントより、みんなの思い

- みんなと一緒によかったと思えるような卒業式にしたい。
- 大きな声で返事をする！
- 二中での三年間を大事な思い出にする。感謝のある卒業式にしたい。
- 今まで3～6年間一緒に過ごしてきた友達と、今までみたいに当たり前に出会えなくなるから、一緒に過ごせる時間を大切にしたい。
- 卒業式は楽しみでもあり、別れが悲しい場でもあった。
- 代議員は毎日声かけしたり、放課後残って話をしたりしてるとを思うと、代議員のためにも自分のためにも卒業式をいいものにしようと思った。

○先生たちに言われるのではなく、自分たちでいい式を作り上げたい。

○自分たちで完璧にしたいから、歌とか積極的に取り組んで、離れたくないっていう気持ちを持ったまま卒業する。

○みんなの記憶に残る卒業式にしたい。みんなで卒業式を成功させたい。

○合唱でみんなをひっぱれるようにがんばりたい。

○楽しい、思い出に残る、やってよかったと思える、ちゃんとした卒業式にしたい。

○卒業まで毎日悔いのないような生活を送るようにして、卒業式では皆が「よかったね」といえるようにしたいと思った。

○今からは何事にも真剣に取り組む。どんな行事よりも感動できる卒業式がいい。

○今までの思い出を振り返って、「良かった」「もう一度ここに戻りたい」と思えるような卒業式と、そこまでの道のり。

○1日1日を今まで以上に大切に、最後に笑顔で終われるようにして、卒業したぐらいで心が離れてしまわないような絆を作りたい。

○「私たちが」「私たちのために」作り上げる卒業式にしたい。

○今日、代議員の話を聞いて、本当にみんなのこと考えて行動してるんだなと改めて感じさせられた。自分たち班長も任せきりにせず頑張ろうと思った。

○一人ひとりが満足して、大人になっても覚えている卒業式にしたい。

○色々な人に支えてもらって初めて出来る卒業式、自分たちがこの三年間、どんな思いで過ごしてきたのかをしっかりと伝えて卒業したい。

○いつか思い出したときに楽しかったなとか二中学生でよかったなと思えるようにしたい。

- これでもう会うことが出来ないから悲しいとか、全部考えずに楽しく笑顔で卒業したい。
- 卒業式で楽しかったとかこんなことあったなとか、後悔しないように勉強と同じくらい練習をがんばりたい。
- 卒業まで「みんなとおれて楽しいな」って言うのをもっと感じたい。代議員に協力したい。卒業式でいっぱい笑いたい。
- 誰も「いやだな」と思うことのない卒業式にしたい。
- 一番思い出に残るものにしたいから、毎日充実した生活にして、先生や後輩、お世話になった人たちに感謝する。
- 今まで以上に一生懸命授業をうける。
- 大事なものは形じゃなくて、自分たちで作ることだと思ったから、自分たちが納得できる卒業式にしたい。
- 自分の中で一番いいと思える卒業式にしたい。
- 思い出を振り返り、語り合える卒業式にしたい。
- たまに周りで「めんどくさい」とか言っているのを聞いて「卒業式をちゃんとしよう」と思ってるのは自分だけかなと不安やったけど、代議員も同じ気持ちで安心した。笑顔で終わりたい。
- 大人になってもよかったなと思えるような、思い出になるようなものにしたい。
- 残っている授業をしっかりうけ、最後まで気を抜くことがないようにしたい。
- 一生覚えているくらいの卒業式にしたい。
- 友達を大切にしていって、授業を大切にしていって。あと2週間やけど、その2週間でどう変わるかを考えて行動にうつす。みんなに感謝。



卒業式 全体合唱 「桜ノ雨」

作詞者 森晴義さんの言葉

岐阜にある母校の中学校では合唱が盛んで、いつも歌とともに学校生活がありました。大人になってしまった今、みんなどこで何をして暮らしているかわからないけど、また昔みたいに集まって歌いたいね、なんて話をします。

「桜ノ雨」が皆さんにとってそんな1曲になれば良いなという願いを歌詞にこめました。

ぼくたちは、それぞれ色々な大きさ・形をした、桜の花びらです。でも桜は、一枚の花びらだけでは、美しく咲けません。

合唱も同じこと。

この3年間を振り返りながら、これからの未来を想像しながら、友達や先生の歌声を感じながら、合唱という名の、大きな桜の花を咲かせてください。

そうして大空へ旅立った花弁が、いつの日かこの曲をきっかけに再び集い、皆さんの歌声が思い出とともに降り注ぎますように。